

第3章

プロジェクト研究 I

1 研究の概要

(1) 研究主題

「教科等横断的な学習の視点をもった単元配列表（案）の作成推進について」

(2) 設定理由

1年次については、課題研究において「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業実践を行ってきたが、それを推進していく上で各学年の年間の授業内容を見て分かるようにする必要性があった。そのため、研究推進委員会を中心として今年度は単元配列表（案）を作成した。これが作成されることによって、どの時期にどの内容の授業を行っているのか、横断的な視点で学習を取り入れることができるのではないかと考える。

(3) 研究の内容と方法

この整備に関わる業務については教務部が担当した。昨年度から作成しているシラバスを基にして、単元配列表（案）を作成する。さらに、様々な行事もあるため、それも単元配列表（案）に入れることで教科等だけではなく、行事とのつながりについても見て分かるような形式にしている。それを踏まえて、各教科等で単元の時期や内容を検討してもらうことで、より効果的に横断的な学習ができるように整備していく。

(4) 推進日程

- 4月 6日 全体研修①：昨年度までの研究内容の確認
- 4月 26日 第1回研究推進委員会：今年度の研究について検討
- 6月 4日 第2回研究推進委員会：全体研修での内容確認
- 6月 8日 全体研修②：今年度の研究内容の提案
- 7月 20日 第3回研究推進委員会：進捗状況の確認
- 10月 13日 全体研修③：研究の中間報告
- 10月 17日 第4回研究推進委員会：進捗状況の確認
- 2月 4日 第5回研究推進委員会：最終報告に向けての確認
- 2月 8日 全体研修④：最終報告、次年度に向けて

2 研究の実際

(1) 今年度の整備の状況について

① 単元配列表（案）

昨年度作成したシラバスを基にして、各単元の時期や行事等を見て分かるような作業を行った。また、この試案を基に各教科部会（国語、数学、美術、体育、音楽）にて内容の確認をしてもらい、教科等横断的な観点から必要に応じて時期の変更をした。また、高等部の学習指導要領（パブリックコメント段階）が公表されたため、それを基にして本校の指導内容表の内容の検討、精査も同時に行っている。

3 成果と課題

(1) 成果

① 単元配列表案

今年度は試案段階で作成を終えているが、実際に年間の単元の流れを一目で見て分かるような形式を作成することができたことで、次年度以降これを基に年間の指導を行い、様々な観点から横断的な学習をすることができるツールになるのではないかと考えている。また、次年度の実践を受けて、今年度試案だったものから単元配列表確定版ができることで、教科の年度末反省で挙がっていた「同じような内容を取り扱っている。」といったことも減少するのではないかと考えている。また、今年度においては、高等部の学習指導要領（パブリックコメント段階）も公表されたことで、本校の指導内容表の精査もできたことでより次年度以降新学習指導要領に沿った指導を行うことができるのではないかと期待できる。

(2) 課題

① 単元配列表案

現時点では、まだ試案のため次年度新学習指導要領が公表された時点で内容の確認、精査をもう一度行っていく必要がある。そのためには、本校教員一人一人が求められている生徒の資質・能力を再度確認する必要性が生じる。そのためには、本校教員一人一人が研修での研鑽を積むと同時に、本校の校内学習会などの取り組みをより一層充実させていく必要がある。

第 3 章

プロジェクト研究Ⅱ

プロジェクト研究

「模擬株式会社 IMAKANE FACTORY」

1. 今年度の取り組み

◇役員選出 [5月]

各学科2・3年生から1名選出 全6名で役員を組織

◇模擬株式会社総会 [6月27日、2月13日]

- ①各学科の年間の活動や取り組みについて説明
- ②学校祭に向けた学習会
- ③今年度の取り組み（仕入れ商品、コラボ商品、ふるさと納税返礼品）

◇IMAKANE FACTORY 学習会 [7月23日]

卒業生（18期生）、i・スマイルから（1名）卒業後の生活と働く事について
平成29年度卒業生からの働く様子やビデオレターメッセージ

現在の仕事の様子や内容、日常生活の様子やお金に関する内容、課題や夢など多くの質問に答えてもらいました。また、在校生の中からも質問に答えてもらい身近なこととして捉えることができました。

4月に卒業した二人からの現況報告と仕事の様子をビデオ上映し、在校生に向けてメッセージを伝える事ができました。

◇ふるさと納税返礼品 [6月～12月]

【返礼品】

産業科・窯業科「いまルン・だんしゃくん」マグカップ、「八角皿」

農業科「男爵いも」「たまねぎ」

生活家庭科・家庭総合科「ランチョンマット」「ステンシル布巾」「鍋つかみ」



昨年度から町や業者と協議を重ね、返礼品の内容を検討し、決定しました。6月からふるさとチョイスに掲載がスタートすると、1週間で農業科の製品全10セットに注文が入りました。そして、10月に納税のあった東京、島根、福岡など10名の方に発送することができました。

納税者は各都道府県の商品を中心に選択し、納税する傾向にあり、窯業科、家庭総合科の製品には注文はなかったため、次年度は更に製品構成を工夫し取り組みたいと思います。

◇学校祭〔11月19日〕

- ・生産品に関する学習会（特別日課初日）

6月の総会では、商品の価格の仕組みについて大まかに説明しました。学校祭特別日課の初日に再度、各学科で学科の製品価格について学習しました。また、仕入れ商品やコラボ商品の内容や取り組み方、配当金（チョコレートケーキ）になった事について説明しました。

- ・チラシの作成（生徒製作）



役員で各学科の仕入れ商品や製品の写真、コメント、レイアウトを考えA3サイズ両面にまとめ保護者に配布しました。

- ・コラボ商品の開発（仕入れ販売会場にて販売）



3学科の生産品を組み合わせ、一つの販売品となるよう早い段階から学科長部会等で協議し取り組むことができました。保護者や地域の方々にも好評だったため、次年度も浸透するように継続していきたいと思います。

・仕入れ販売

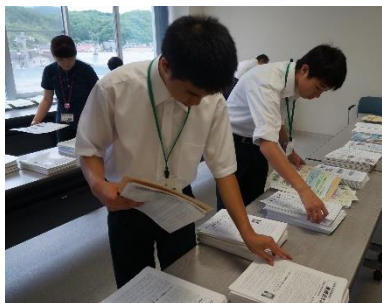
今年度は各学科購入資金を増額し学校祭に向けて準備しました。町内商品や道内商品、道外商品などを揃え、完売することができました。また、生徒アンケートや保護者等の意見を参考に次年度も取り組みたいと考えています。

・アンケートの実施（総会で発表）

1月に模擬株式会社に関するアンケートを全校生徒対象に実施しました。仕入れ商品の量や内容、コラボ商品について、次年度役員になりたいか等結果と方向性を発表しました。

◇共通作業種〔5月～2月〕

- ・回覧作業（年間）
- ・車いす清掃（年間）
- ・レク補助（年間）
- ・総合体育館清掃（作業強化、マニファクチュア）
- ・認定こども園除草、運動会補助（1学年）



年間の活動実績として、回覧作業 14 回、車いす清掃 16 回、レク補助 18 回を 2・3 年 2 名で取り組み、後期から 1 年生で抽出した生徒を引率して参加しました。

1・2 年の作業強化日や 3 年の校内マニファクチャを利用し総合体育館の清掃に全校で取り組みました。

今年度から 1 年生で認定こども園のグラウンド除草や運動会総練習の補助にも参加。2 月には共通作業種のボランティアという位置付けで、かまくらや雪だるま作りに 1 年生で取り組みました。園児からお礼の絵手紙をいただき自己有用感を得ることができました。

1・2 年が食品加工体験として檜山北高へ共通作業種の一つとして実施していたが、共通作業種の精選から次年度は学年行事（体験作業）と位置づけ、模擬株式会社（共通作業種）の中含まないこととしました。

◇模擬株式会社事業報告（役場）〔2 月 25 日〕

- ①今年度の模擬株式会社の取り組み
- ②学校祭で販売した仕入れ商品について
- ③模擬株式会社アンケート結果について

〔報告者〕町長、副町長、教育長



2. 次年度に向けて

今年度は年間を通じて昨年よりも生徒が主体的に活動することや充実した学習となるように、各学科ごとに知恵を出し合い実施することができました。特にコラボ商品やふるさと納税返礼品では、初めてのことで戸惑いもありましたが、充実した取り組みとなりました。

役場における事業報告では、町長や教育長からも今年度の模擬株式会社の取り組みについて評価していただきました。

次年度は今年活動した中での反省点として、1 年生の役員も継続した取り組みとなるよう 1 年生からも 3 名を選出し 9 名体制で組織する方向で検討。また、現行 5 つの委員会では組織している生徒会活動の中に模擬株式会社委員会（仮称）を設置し定期的に運営したり、学習したりすることができるよう検討していきたい。